

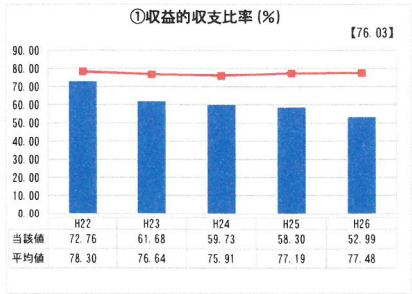
表 1-4 経営比較分析表

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	100.00	2,330

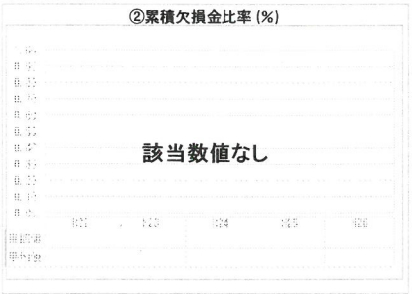
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
13,590	301.98	45.00
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
13,432	117.39	114.42

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成26年度全国平均

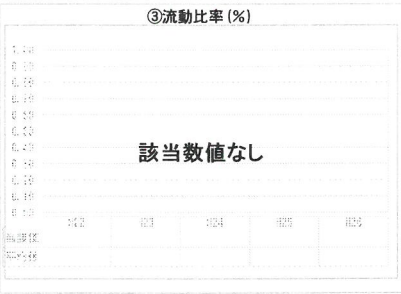
1. 経営の健全性・効率性



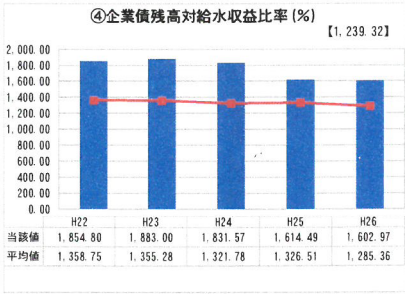
「単年度の収支」



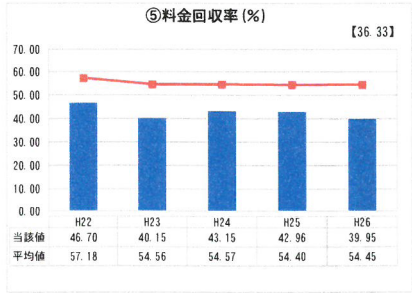
「累積欠損」



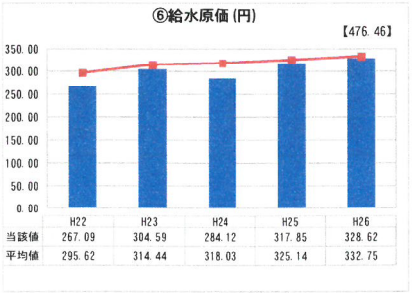
「支払能力」



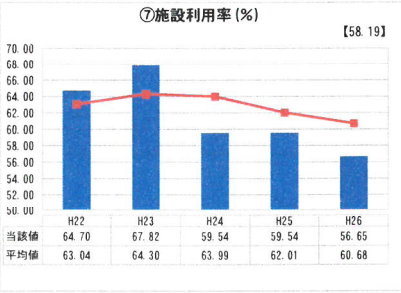
「債務残高」



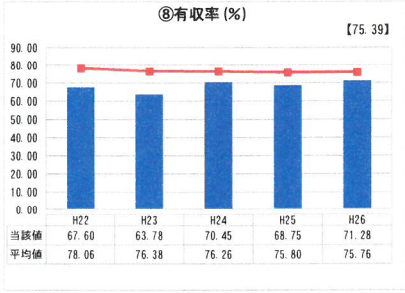
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

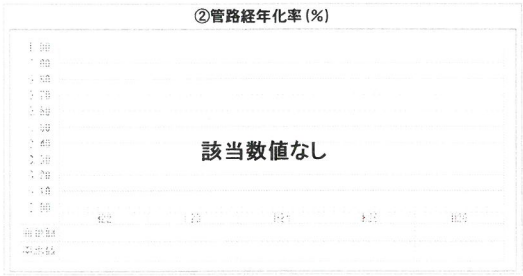


「供給した配水量の効率性」

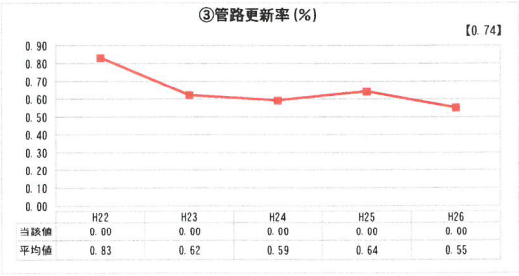
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率から料金回収率を鑑みると、料金の改定を検討しなければならない状態である。しかしながら、当町の人口減少及び高齢化において、有収率に対して施設利用率が低くなっている状況から、水道使用料の値上げにあたり、十分検討し、慎重を期することが肝要であると思われる。

2. 老朽化の状況について

具体的なデータの比較検討が出来ない状況であるが、現状として、管路経年化率の低下及び管路更新率の向上また計画的な管路更新に向けて鋭意努力している。

全体総括

今後、料金の見直しなど健全な経営とともに効率的な施設運用が出来るよう、計画的な施設更新とバランスの良い運営を心がけたい。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出している。

管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出している。